



埋文だより

第67号

平成27年 6月26日発行



鈴の部分の拡大

221号墓の玄室内

日本最古級の鈴 国内最多出土！

東九州自動車道建設に伴う発掘調査が行われた立小野堀遺跡（鹿屋市）で、古墳時代（5世紀前半～6世紀前半）の地下式横穴墓が190基見つかりました。そのうち、148号墓と221号墓の2基から、三環鈴の転用鈴1点、単体で铸造された鈴4点の5点ずつ、計10点の青銅鈴が出土しました。単体で铸造された鈴8点は、日本列島における鈴の最古型式（5世紀前半）とされるもので、一つの遺跡から発見された数としては国内で最多となります。

（3ページに関連記事）



221号墓で見つかった鈴

目次

- ・日本最古級の鈴 国内最多出土！……………1
- ・発見！発掘速報……………2・3
- ・新たな県指定文化財!! ほか……………4
- ・本物で学ぼう! 「まいぶんキット」ほか……………5
- ・平成27年度発掘調査予定遺跡……………6

発見！発掘速報

平成 26 年度に行われた、県立埋蔵文化財センターと（公財）埋蔵文化財調査センターの発掘調査成果の一部を紹介します。



…県立埋蔵文化財センターの発掘調査
ま...（公財）埋蔵文化財調査センターの発掘調査

よみがえる排水施設

～鹿児島（鶴丸）城跡（鹿児島市）～



鹿児島（鶴丸）城は、今から約 400 年前に初代薩摩藩主島津家久（忠恒）によって築かれた城です。

本丸跡は明治 6（1873）年の大火で焼失し、その後の跡地は、中学造土館、第七高等学校、鹿児島大学（文理学部・医学部）などとして利用され、現在は黎明館が建っています。

昨年度は正面の入口である御楼門部分とその周辺の石垣修復のための発掘調査を行いました。調査の結果、石垣の上の段と下の段の両方から溶結凝灰岩製の排水溝を確認しました。上の段の排水溝は、黎明館を建てる際の発掘調査で確認されていたもので、鹿児島城跡の石垣の縁を巡るように造られていました。また、今回確認された御楼門部分の排水溝は、上の段の排水溝から流れてきた水を堀に流していたようです。この御楼門部分は、昔は谷であったと考えられ、城の一部である城山からの水が集まる部分だったようです。そのため、排水には非常に気を遣っていたと考えられます。

また、軒平瓦や軒丸瓦、大飾瓦など多種・多彩な瓦も出土しました。



御楼門部分の排水溝



石垣の上の段の排水溝

沼地から「センダン」出現

～白水 B 遺跡（鹿屋市）～

鹿屋市白水町に所在する白水 B 遺跡では、20 年ぶりに発掘調査を再開しました。平成 5・6 年度の調査では、縄文時代早期・後期・晩期、古墳時代の遺構・遺物が発見されています。昨年度は旧石器時代細石刃文化期とナイフ形石器文化期の発掘調査をおこないました。掘り下げていったところ、湧水を含み、ぬかるんだ場所（沼地）が見つかり、その中から、長さ 1.9m、幹周り 1.8m、直径 60 cm の木の幹の下側部分にあたる倒木が見つかりました。

この倒木は、湧水によって形成された袋状の穴に入り込み、その後、穴が土石流によって埋められたと考えられます。調査中も地中から水が湧き出していました。地下水につかっていたので、ほぼ当時の状態で残っていました。倒木は樹皮もしっかり残り、年輪もはっきり見えるほどで、大人 4 人がかりでようやく持つことができるほど重いのでした。

科学分析をおこなったところ、落葉性高木の「センダン」の木であることが判明しました。



発見されたセンダンの倒木



掘り出されて水洗い中のセンダンの倒木

装飾品？それとも祭祀用？

～立小野堀遺跡（鹿屋市）～



148号墓で発見された鈴
（左端は三環鈴から転用したもの）

日本でも作られ始め、現在につながる鈴へと変化を遂げていきます。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。



立体はぎ取り資料

表紙ページで紹介した 10 点の鈴は、朝鮮半島製か半島を経由してもたらされたもので、装飾品もしくは呪術祭祀用として使用されたものと考えられます。

日本列島における最初のころの鈴は、このように“ずんぐりむっくり”で栗のような形をしたものだったようです。これ以後、鈴はきれいな球形となり、

日本でも作られ始め、現在につながる鈴へと変化を遂げていきます。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。

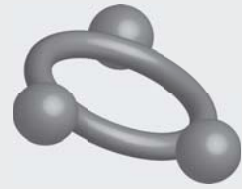
また、昨年度、地下式横穴墓の 232 号墓を、立体はぎ取りという技術を使って記録保存の一手法として残しています。原寸大ですので、内部のようすが非常によくわかります。現在、上野原縄文の森で展示していますのでぜひご覧ください。



148号墓玄室内の人骨と鈴



発見された鈴



三環鈴の模式図

縄文時代草創期～早期の調理場？

～牧野遺跡（南九州市）～

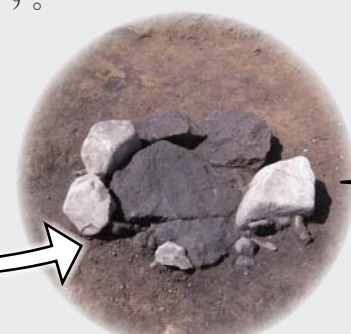


県道額娃知覧線（知覧道路）改築事業に伴う発掘調査が行われた牧野遺跡で、縄文時代早期（約 7,300 年前・約 8,000 年前）の土器や調理施設と考えられる集石遺構が多数発見されました。また、さらに古い縄文時代草創期（約 12,000 年前）の土器や集石遺構も見つかっています。

特に注目されるのが、縄文時代草創期の地層から見つかった直径約 2m、深さ約 30cm、礫（拳大の石）の数約 1,700 個という大型の集石遺構です。中央に石組みの炉をもつ竪穴に、大量の礫を詰め込んだ状態で検出されました。このような構造のものはあまり例がなく、用途も含め今後検討していく必要があります。縄文人たちがくり返し訪れ、生活した場所として注目されます。



大量の礫が出土したようす



敷石状の礫



下にあった小礫の集まり

礫を半分取り除いたようす

新たな県指定文化財!!

山ノ口遺跡出土品

錦江町 平成 27 年 4 月 17 日指定

山ノ口遺跡は、弥生時代中期後葉（約 2,000 年前）の遺跡で、大隅半島の中ほど、錦江町（旧大根占町）の国道 269 号線に沿った海岸側の畑地にあります。昭和 33 年に砂鉄の採掘を行った際、同時に完全な土器や軽石の加工品も掘り出されたことが遺跡の発見につながりました。その後、3 回にわたる発掘調査によって、軽石や土器などを直径約 2～5m のサークル状に並べた場所が 10 か所ほど見つかっています。また、円形の孔を開けた土器や赤く塗られた土器もたくさん見つかり、「祀り」が行われていた場所ではないかと考えられています。

今年 4 月 17 日に、完全な形の土器や軽石で作られた人形（岩偶）・家形の加工品、石を磨いて作った鏃など、計 146 点が県の有形文化財に指定されました。



軽石製岩偶
(男性)



軽石製岩偶
(女性)



家形軽石製品



ジョッキ形土器



長頸壺



小型脚付鉢



国道沿いに立てられた記念碑

上野原縄文の森 第42回

蘇る SHOKU I

企画展好評開催中

上野原縄文の森では、4 月 17 日（金）から 7 月 5 日（日）まで、上野原縄文の森では第 42 回企画展「蘇る SHOKU I」を開催しています。今回の展示では「SHOKU」の第 1 弾として、「古」の人々の生活のようすを「食」というテーマで紹介しています。人は生きていくために食べなければなりません。より多くの「食」を確保するために、どのような工夫を積み重ねてきたのか、また、生活のスタイルをどのように変えてきたのかについて、これまでの発掘調査で得られた情報をもとに追求しています。もしかしら、現代の料理などに使える新たなヒントが見つかるかもしれませんね。実際に石皿と磨石を使ってドングリをつぶす体験コーナーもあります。縄文人の気持ちになってドングリをつぶしてみてください。

開催期間中の土・日・祝日には、展示内容を解説する企画展ギャラリートークを 2 回ずつ行っています。1 回目が 10:30 から、2 回目が 14:30 から開始となっていますので、こちらもぜひご参加ください。



本物で学ぼう！

「まいぶんキット」

『教科書の中でしか見る機会がなかった子どもたちに、本物縄文土器や鏃などにふれる機会を提供したい！』

埋蔵文化財センターでは普段の授業や郷土教育への取り組みを支援するため、教室の中で本物の土器や石器などにふれることができる、実物資料の貸出事業を実施しています。学びの場をより豊かにする一助としてぜひご活用ください。平成 26 年度は、6 校 1 団体、498 名の児童生徒の利用があり、総合的な学習の時間や社会科等の補助教材としての活用を通して、「本物」を手にする感動を味わってもらいました。

申込みにつきましては、日程、内容、受取方法などを当センターにお問い合わせの上、申込書を郵送または FAX でセンターまで送付してください。申込書は、当センターのホームページからもダウンロードできます。ただし、申込み多数の場合は、日程調整をさせていただくことがありますのでご了承ください。

「まいぶんキット」の組み合わせの例

- ☞ 「縄文土器セット」…平椀式土器、押型文土器、加栗山式土器など
 - ☞ 「縄文石器セット」…磨石、石皿、石斧、石鏃など
 - ☞ 「『縄文』を描いてみよう」…縄文原体（土器文様を描く道具）セット
 - ☞ 「どんな獲物がいたのかな」…尖頭器、細石刃、石鏃など狩りの道具
 - ☞ 「国産陶磁器と輸入陶磁器を比べよう」…常滑、瀬戸、磁州窯系、龍泉窯系など
 - ☞ 「歴史を作ってきたサツマ」…幕末から明治期の遺物と縄文時代早期土器（いち早く花開いた縄文文化の紹介）
 - ☞ 「薩摩焼の歴史」…堂平窯跡出土の遺物
 - ☞ 「戦争と人々の暮らし」…戦争関連遺跡出土の遺物（葉きょう、日用品など）
 - ☞ 「殿様の暮らし」…島津家屋敷跡出土の遺物
- ※ 上記以外のご要望にも対応いたします。



センターで体験を！

教職員や中・高校生、大学生、さらに市町村の埋蔵文化財担当職員の方々が研修や職場体験学習によって歴史を学ぶことができます。実際に発掘調査現場やセンター施設内で、いろいろな業務を体験することによって、仕事や学校生活だけでなく、日常生活の中でも役立つことが多くなるのではないのでしょうか。また、センター内の見学も随時受け付けていますので、学校等の遠足、PTAや子ども会等の研修視察にぜひお越しください。

★教職員対象 ▶▶ パワーアップ研修【小・特・養・栄】(7月30・31日)・【中・高】(8月6・7日)フレッシュ研修(8月18・19日)

★埋蔵文化財担当職員対象 ▶▶ 専門職員養成講座【初級】(8月18・19日)・【中級】(8月25・26日)【上級】(1月21・22日)

★中・高校生、大学生対象 ▶▶ 職場体験学習、インターンシップ



専門職員養成講座



パワーアップ研修



センター見学



職場体験学習



発掘体験

見学してみない?
発掘現場

平成27年度 発掘調査予定遺跡



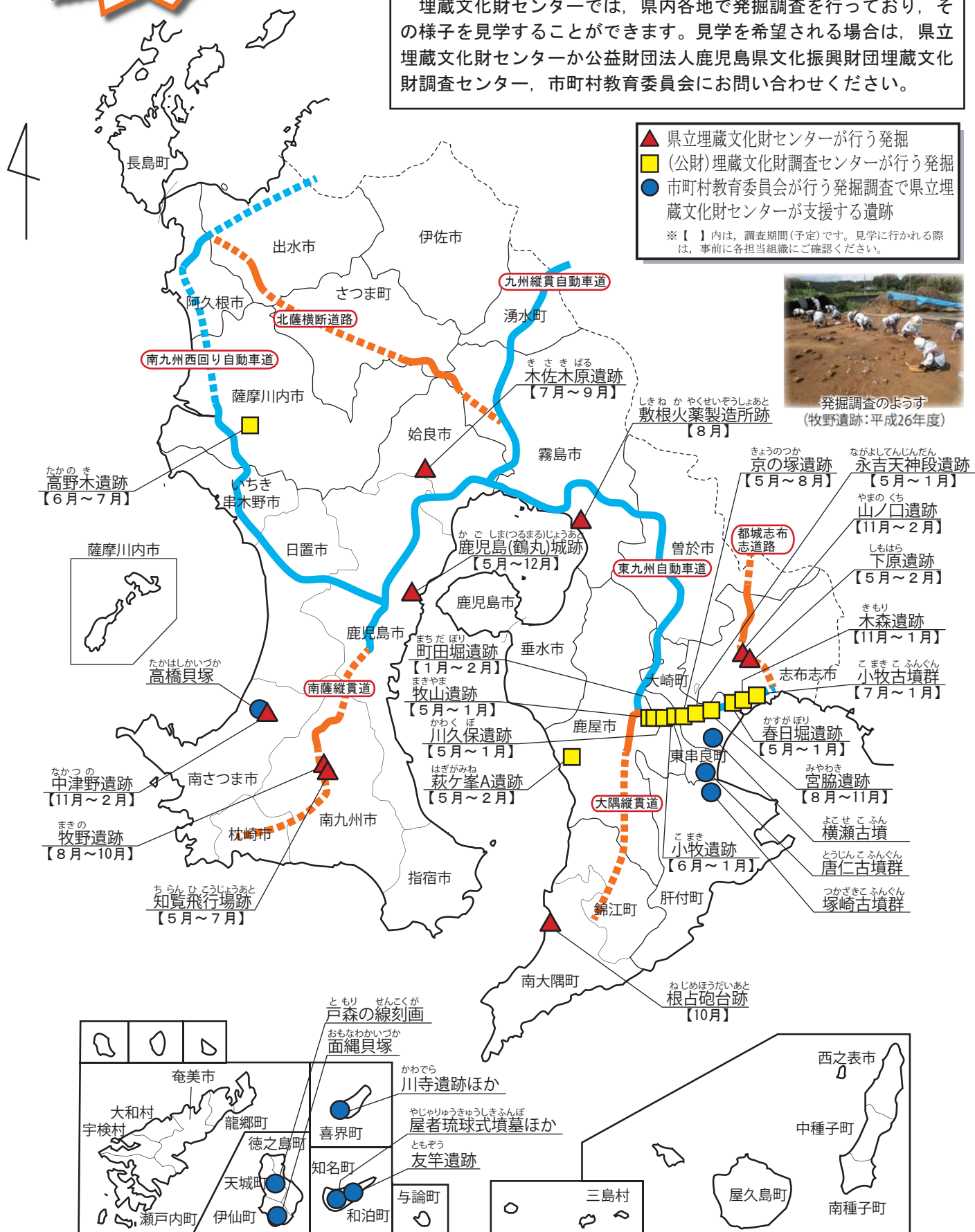
埋蔵文化財センターでは、県内各地で発掘調査を行っており、その様子を見学することができます。見学を希望される場合は、県立埋蔵文化財センターか公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター、市町村教育委員会にお問い合わせください。

- ▲ 県立埋蔵文化財センターが行う発掘
- (公財)埋蔵文化財調査センターが行う発掘
- 市町村教育委員会が行う発掘調査で県立埋蔵文化財センターが支援する遺跡

※【 】内は、調査期間(予定)です。見学に行かれる際は、事前に各担当組織にご確認ください。



発掘調査のようす
(牧野遺跡：平成26年度)



当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県教育委員会 (<http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/>) または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp>) からお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック

埋文だより 第67号

発行日 平成27年6月26日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp